

松葉屋通信

vol.26 2013.11.29

たのしい冬ごもり

今年の松葉屋は『山と森と人々の暮らし』をテーマに、いろいろな方向をさぐってきました。
冬からはじまり、また冬がやってきます。
森の木々や動物たちは長い冬を越えるために、
養分を蓄えたり、暖かな巣作りをします。
そして人も、家を暖かく、ごちそうをいただく日がふえるのも、さむい冬ならではのこと。
休みの日も夜も、できるだけ外には出ないで
家にいたくなる冬は、ゆっくりじっくり絵本
の世界を旅してみるのもいいですね。





表紙に惹かれて本屋さんではじめて手にとる絵本。

夜更けに一人、ワインとチーズをゆっくり味わいながら読む絵本。

「ママよんで」とこどもがひざにすわって何度もよむ絵本。

こどものふとんにもぐりこんで一緒に読む絵本。

取り囲むこどもたちの息づかいを感じながら読む絵本。

絵本はくらしの一部分だな、と思います。

たのしい冬ごもり



わすれられない おくりもの

いつもみんなに頼りにされているアナグマが、年をとって死んでしまいます。かけがえない友だちを失った時、どうやってその悲しみを乗り越えればいいのか。それはその人がのこしてくれた、知恵と工夫をこめた楽しい思い出、とこの本は教えてくれます。悲しみでなく、その人の笑顔や、楽しかった思い出に目をむけることで、時間が経っていくことで、いつか乗り越えていけるのかもしれない。



ちいさなもみのき

窓中にろうそくを灯したあたたかい部屋の中には、キラキラに飾り付けられたもみの木がうれしそうにたたずんでいます。もみの木のために、クリスマスソングを歌おう。



わたしのうち

松葉屋に届く椅子の入っているダンボール。「わたしのうち」と同じくらいの大きさです。なので、うちのこどもたちは、共感しながらこの本を何度も読み返します。こんな野原があったら、もっと楽しそうだけ。



しろいうさぎとくろいうさぎ

大きな森にすむ、小さなしろいうさぎとくろいうさぎ。毎朝寢床から跳ねおきて、一日じゅう一緒に楽しく遊びます。ある日、二匹は大切な約束をかわします。ガース・ウィリアムズの描く、フワッフワのうさぎの姿に目も心もいやされながら、シンプルであることっていいな、と思わせてくれます。



パンやのくまさん

パンやのくまさんはとても早起き。かまどに火をいれて十分熱くなるのを待ちながら、朝一番のお茶を飲みます。小さなものまできちんと描いてある絵も楽しくて、くまさんの趣味は魚釣りとかわかったり…。まじめで動きもののくまさんの一日です。



もりのなか

わたしも、ぼくも、ついていく！最初はひとりぼっちのさんぽが、みるみるうちに長い行列に。うたた寝しながらこんなに楽しい夢が見られたら素敵だな。



バムとケロのさむいあさ

うちの子が小さい頃は、何度も読んでとせがまれたし、こども一人でも繰り返し読んで、もうポロポロになりました。寒い日の朝に起こるできごとに、心を温めたり笑ったり。おやつ場面や小さい仲間の様子など、本の隅々まで楽しめます。



誰も知らないサンタの秘密

知りたいような、知りたくないような。でもそんなに怖がらなくても大丈夫。サンタさんの活躍を支える、小さな偉大人たちのお仕事をのぞきみてみましょう。



ガリバーの冒険

井上ひさしが文を書き、安野光雅の絵の世界。誰もが知ってる名作のお話だけど、語り手や絵が変わるだけでまるで別のお話のようになります。2人の力で新しい魅力を放ったお話に変身しました。



おおかみとちびやぎ

心細くて、さみしくて、心が悲しくなった時『きっと助けてくれる』そんな存在を信じる気持ちを思い出して勇気をもらいます。



まっけてね

お嫁にいったお姉さんが泊りにきて、歳のはなれた妹は、自分とちがうお姉さんの素敵さにあこがれます。ラストのお母さんと妹のやりとりに、胸がアツくなりました。



木を植えた男

荒れ地に木の種を蒔き、一生をかけて森にした男の人。どんなに世の中が変化しても、ただただ実際に、揺るがない心でひとつの事を成し遂げました。白黒セピアのさみしい世界が、このひとりの人の手で色あざやかにかわっていく。まるで魔法のように、命を生み出す人のお話です。



K・スギヤマ博士の動物図鑑

スギヤマ博士は冒険家、ノードリニッチ島で出会ったふしぎないきものたちの、とくちょうや性格をとっても魅力的に紹介してます。細長い4本の足をもった、握手が大好きなカルメットという生き物。4本全部で握手をしないと知らなくて握手がからまって大変！体が伸び縮みするルーノバは、前に進もうと思って足を出すけど、体が縮んでもどの場所にもどってしまう。なかなか前に進めない。とってもユニークな特徴をもった生き物ばかり。本当にいたら、なんて楽しいだろう。



よるくま

うんと夜中にぼくの家に、遊びにきたくまの子。お母さんがいなくなったから、一緒にさがしてあげることに。よるくまの仕草や表情、土と草でできている、フカフカのよるくまの家。お母さんに出会うまでのいろんな場面に、胸がキュンとします。

満月を彩る、やわらかな灯り

こんな風でした！



松葉屋、土蔵の一階二階の空間に灯りが灯されると、いつもとはまたちがった時間が、流れはじめました。秋の夜を、しずかにしずかに、包み込んでくれる、木とガラスごしの温もりを感じらる週末となりました。

ch.books 出張カフェ。
手作りスコーンが人気で売り切れ！



ちいさなカッティングボードをつくるワークショップ



予約ですぐにいっぱいになってしまっただけに、みなさん、真剣な表情で、時に楽しく笑いながら手をうこしていました。

『満月盛り場』満月の夜だけ、オープンしました！

「満月の夜はワインがおいしい」。なので 10/19 の満月の夜、松葉屋で ch.books さん主催の『満月盛り場』が開かれました。セラー・キタムラの店主、北村さんのワインのお話を聞きながら、おいしいワインをいっそうおいしくいただきました。



松葉屋通信 vol.26

発行所 松葉屋家具店+くらし道具学研究所

〒380-0841
長野市大門町45
TEL 026-232-2346
FAX 026-237-4558
since1833@matubaya-kagu.com
(水曜定休)

発行日 2013年11月28日

©松葉屋家具店+くらし道具学研究所
Copyright ©2010 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.



チョコレートタウンオーケストラやスミさんのライブを聴きながら、私たちも仕事場でちょっとお食事タイム。ロジェ・ア・ターブルの料理とパン。おいしいものと音楽ってしあわせ。